

小体研

Physical education

2020年(令和2年)

12月16日(水)

◇第6号◇

八重山地区小学校体育研究会
広報誌

八重山地区小学校体育研究会の発足にあたり、尽力された諸先生方のこれまでの活動をアーカイブとして残していくために、文章を寄せて頂きました。吉濱剛先生による寄稿「最終号」です。小体研寄稿④(全4回)

私と体育授業

八重山地区小学校体育研究会
相談役 吉濱剛

日頃、教室の中では中々自分らしさを発揮できない子どもも体育の授業になると心の鍵が解き放たれ、本来の自分を体いっぱい表現します。「本気」になって記録や勝敗等に立ち向かっていきます。ゲーム中、対立も生まれますが、共通の目的のために集団の仲間意識、団結力、創造力等が育まれます。

また、現在の体育の授業の流れである課題解決(めあて)学習は、「今ある自分の力」で楽しむことができます。更に「自分の課題」に向かって工夫して場を作り、新しい技に挑戦したり、より技の完成度を求めたり、戦術を生かしたゲーム等を行うことで、子ども自ら主体的に関わり、より楽しさが深まるようになります。

体育の授業は、その種目の特性をしっかりと捉え、子ども側から捉えたらどのようなメリット・デメリットが予想されるのかを分析し、発達段階に応じて子どもにその種目のもつ特性を味わわせる工夫が私たち教師に求められているのです。

そのために、データやリフレクションを通して授業分析をして、明日の授業に繋げて更に種目の特性を楽しめるように改善していきます。

日々の授業は、PDCAサイクルを通した指導と評価の一体化を図ることで質の高い授業が保証され、体育学習は深まります。

私は大好きな体育を子どもたちに提供するには、6年に一度の県学体研八重山大会の時だけ盛り上がるような研究会ではなく、日頃の体育の授業から子どもたちが主体的に関われるように改善を図ることを目指したいと思っていました。

そのために私が会長を勤めていた10年余は、4つのキーワードで会運営に進めました。

1つ目は、授業検討会を通して授業を公開すること。2つ目は、指導技術を高めること。3つ目は、保健分野も研究授業を行うこと。4つ目に研究会の活性化を図ることです。

年間100時間前後の体育授業では、子どもの学習保証、学力保証が求められています。それに応えるために、小体研の会員同士で積極的に授業研究を通して授業改善を行い、その成果を持ち帰って各学校で実践し授業改善に努めて欲しいと思います。

またこれまでは、研究授業を参観に来てくださいという「参加型」の研究会でした。もちろんそれはそれで大切な事ですが、参加した教師自身の成長を図り、授業改善を図っていくためには、指導案の検討段階から一緒に考える「参画型」を大切にしたいという思いから事前検討会を行うようにしました。

SNSの発達で参加できなかった会員のために、ライン等を通して事前検討会や実際の授業場面、研究協議の様子を流すことで共有を図っていることは、今後も充実した研究会の取り組みとして継続して欲しいと思います。